

令和5年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

日 時 令和5年10月23日（月曜日）午後3時00分から午後4時20分まで

場 所 ライトキューブ宇都宮 大会議室201

出席者 別添資料のとおり

内 容 1 開会

2 議題

(1) 「第2次宇都宮都市交通戦略」の中間見直しについて

- ・ 本市の交通の現状分析・課題の抽出
- ・ 中間見直しの方向性（取組テーマの設定、施策体系の見直し）

3 閉会

開会

会長挨拶

- ・ 7月末に第1回を開催してからおよそ3ヶ月が経過。8月26日には無事にLRTも開業した。マスコミによる取材もあり、ポジティブな方向で取り上げていただいている。利用状況は、平日は予想通り、休日は予想の3～4倍となっている。本日、12時台のLRTに乗ってベルモールに行ったが、平日昼間でも満席で立ち席含めてほぼ埋まっていた。想定してはいたが、こういった形で市民の方々に利用していただいているのは大変喜ばしい。本日は、LRTを含め、交通政策全般の現状や高齢化の状態等々についてご報告がある。特に、皆さんと本日議論させていただきたいのは、多くの方に使っていただけるような交通システムをつくるため、G7都市大臣会合でも討議された「インクルーシブ＝包摂性」という観点から、障がい者、高齢な方、子供たち、外国人等の視点も踏まえ、誰一人取り残さない、一歩先の本市の交通について議論できればと思う。

議題(1)「第2次宇都宮都市交通戦略」の中間見直しについて

事務局

- ・ 資料1 事務局より説明

会長

- ・ 本日の意見を基に12月に素案を作ることになるため、特に資料45ページ以降の見直しの方向性について意見をいただきたい。移動から見た課題、取組テーマのところでは違和感がないか、あるいは、抜けている項目がないかを中心に議論いただければと思う。

委員

- ・ 好調なLRTだが、宇都宮駅西側を含め、まだまだ広がりが必要であると考えている。つくる、つかう、つなぐ、ひろげるのうち、「つかう」フェーズに移行しているという話があったが、まだまだ「つくる」に課題があるようであれば、もう少しその部分を分かりやすく記載してはどうかと思う。

事務局

- ・ 今回の交通戦略では、前期計画に引き続き、つくる、つかう、つなぐ、ひろげるという形で計画をつくっていく予定である。LRTについては、宇都宮駅西側についても導入を検討しており、具体的な施策については、次回、第3回宇都宮都市交通戦略推進懇談会の中で議論させていただければと考えている。

会長

- ・ 東側ではLRTが順調に走り出しているが、今後、西側につなぐことは大きな課題。今後より具体的に話をさせていただきたい。

委員

- ・ 現在、非常に多くの方にLRTを利用いただいている。施策にも関係するが、自転車等で停留所まで来ていただいて、LRTに乗っていただくなど、他の地域交通とのつながりをつくることについても現在一歩ずつ始めているところ。本日から若干のダイヤ改正も行ったところであるが、今後も各交通モードとの連携を深めていきたいと思う。

会長

- ・ LRTは、日中は子どもやお年寄りの利用がかなり多いと思う。宇都宮市の現状について事務局から紹介があった、若い人の車離れが顕著になってきているということは、公共交通の母体を広げていく非常に良いチャンスであると思う。この機を逃さないように皆さんで協力していきたい。

委員

- ・ 45ページの「移動から見た課題」を見ると、LRTからバスへの接続という観点では、公共交通サービスの充実、ネットワークの維持・充実と記載されると、非常に重荷に感じるところはある。全産業共通の問題となっているが、運転者不足に悩んでいる。運転者が確保されれば、路線や運行頻度の拡大も可能だが、現状、運転者を募集しても応募がない。次の担い手について考えていくと非常に厳しい状態である。事業者として今後も運転者確保に向けて最大限取り組んでいくが、行政からも協力いただきながら、少しずつ対応していきたい。

会長

- ・ 担い手不足は物流業界も全く同じ問題に直面しており、遠い将来は自動運転という形も見えてきているが、当面は人が運転せざるを得ない。どのような形で運転者不足対策を行っていくかについては、公共交通ネットワークの再編と併せて検討していく必要がある。

委員

- ・我々も運転者不足でかなり苦勞している。これから高齢者が更に増えることで、タクシーの需要もかなり多くなると想定されるが、その対策として、バスやL R Tと協働してできるような取組を考えていきたい。

委員

- ・運転者不足が非常に厳しい状況。いわゆる2024年問題で、改正基準の見直しによって、現状維持が難しい。公共交通ネットワークの維持をなんとか図りながら、お客様にご迷惑をおかけしないように最大限努力している。
- ・乗り放題チケットやフリー乗車券を販売しているが、今年4月～8月までの状況で、2000枚ほどプラスで販売しているなど、お客様が少しずつ観光地に戻りつつある。今後は、より良いものをつくりながら、路線バスの維持、公共交通ネットワークの維持を図っていきたい。

委員

- ・取組テーマは、概ね資料の通りの内容で良いと思う。公共交通網が発達・充実しているところは移動手段が多様だが、市全体でみると、均等に充実しているとは言えない。そういった対策が足りていない地域に対して、施策を展開することも加えていったらよいのではないかと思う。

委員

- ・大変よく分析されている。特に、交通という括りの中だけではなく、まちづくり全体や、市民生活の観点も含めて分析されている。
- ・2点ほど意見を述べたい。前期計画の5年間で効果が出ている部分も当然あると思うが、当初打ち出した施策のうち、思ったほど効果が出ていないものもあるのではないかと思う。計画の中で実施してきたことが5年間でどうなっているか、分析の視点が広がっている分、見えづらくなっているところがあるのではないか。5年間の成果を踏まえた分析を行うことによって、更なる事業の推進が図られるところが鮮明になってくると思う。
- ・今後の課題の中では、市民生活全般にわたって色々な人の視線が入ってきているので、使う側の視点をとりまとめるにあたっては、モニタリングや試行実験等を踏まえた視点から、施策事業の実施をお願いできればと思う。

事務局

- ・前期計画の5年間は、L R T開業を無事迎え、バス路線ネットワークの再編も実施した。地域内交通導入地区も順調に増えてきている。交通系I C等の「つなぐ」取組についても予定通り進捗している。今後まさに「つかう」、「ひろげる」フェーズに入ってくる。使う側の視点を意識しながら、次年度以降、計画に定めた事業を実施するにあたっては、実効性のある取組になるよう進めていきたい。

委員

- ・社会の変化を捉えた課題・取組テーマなど、分野ごとに非常によくまとめていただいている

る。今後は取組テーマから具体的な施策に落とし込むところが課題になってくる。L R T が宇都宮駅東側で運行を開始し、まちも非常に大きく変化している。一方で、今後西側でも計画があるということを経路の中でも強調したうえで、今後の取組の中に打ち出していればと思う。資料では45ページに「立地適正化計画に基づく都市形成と連携した移動手手段の確保・適正化」という記載に落とし込んでいただいているので、今後の取組テーマや施策の内容を検討するうえで意識していただきたいと思う。

事務局

- ・ まちづくりの変化を的確に捉えた計画としたいと考えている。現在、宇都宮駅西側のまちづくりのプラン策定を庁内で進めており、都心部における人、公共交通中心のウォークアブルなまちづくりを進めている。そういった観点から、交通政策としてどのような貢献ができるかを今後明らかにしていきたい。

委員

- ・ L R T が開通し、8月27日から当支社でもバス路線の再編を行った。2点ほど意見を述べたい。1つ目は、各種施策に取り組んでいくにあたっては、事前準備、スケジュールが重要となる。バス路線再編について、L R T のダイヤが決まらないことには、バスの接続ダイヤの検討が難しい。もう少し余裕のあるスケジューリングをお願いしたい。
- ・ 2つ目は、路線再編実施後2ヶ月程度経つが、未だに清原台の一部の住民の方からは駅までの路線を復活させてくれといった声がある。今後、諸施策を進めるにあたって、理解が得られていない住民の方が多くいらっしゃると思う。そういった方々への周知・工夫を考えていく必要がある。

委員

- ・ 我々が一番身近に感じることは、だんだん高齢化が進んでおり、身体各所に異常が出てくるということ。更にそれは徐々に重い症状になり、大きい病院に診てもらいたいという場面が多く出てくる。現在、居住地域から直接大きな病院に行けるバス路線がない地域が結構ある。そういった地域でも自宅から病院までスムーズに行き来できるような路線の充実化が必要と思っている。その辺りを考えていただければと思う。

委員

- ・ 前回の懇談会でも申し上げたが、本市の交通は、縦は便利だが横は便利ではない。比較するのはおかしいが、東京のように車なんて必要ないとなれば理想的だが、先ほど、バス・タクシーでも運転者不足となっている状況を伺った。報道によると、二種免許がなくてもタクシーのように、相乗りして移動させるような方法も、ある地域では実験的に行われているようである。そういった施策も検討の一つとしていただければ有難い。

会長

- ・ ライドシェアは利点もあるが、課題もある。より良い交通のあり方を議論できればと思う。

委員

- ・ 障がい者にとっては、やはり自宅から目的地までいかにスムーズに障害なく行けるかが

一つの課題。46ページに記載のある、移動手段の提供、バリアフリー化の推進は最も重要だと感じる。8月にLRTが開通し、障がい者団体から色々意見があり、バリアフリー化が実現し、車いすでも移動できるようになった。

- ・ 歩行するのが苦痛な足腰が弱い方にとっては自家用車による移動が中心となる。年齢が上がると、免許証の自主返納を行う方も増えてくる。そういった時にどのような代替手段が利用できるかが重要。
- ・ 自家用車を運転する場合については、おもいやり駐車場の適正利用化が図られてきている。以前は便利だからと健常者がおもいやり駐車場に車を停めているケースがあり、障がい者が利用できないことがあった。最近では、スーパーなど、おもいやり駐車場が整備されているところでは、身体の不自由な方にお譲りくださいと定期的に放送していただいている。今後とも引き続きこのような対応をお願いしたい。

委員

- ・ 2点ほどお願いがある。10ページにあるように、地域によっては各地域拠点における路線バス運行本数が少ない場合がある。そのような地域で、今後どのような対策が必要なのかを検討いただきたい。
- ・ 2点目は、38ページに記載があるように、2050年のカーボンニュートラルは待ったなしの課題。関連プロジェクトも39ページに掲載されているが、カーボンニュートラルは資金も必要となり、なかなか大変な課題であるため、今後、強力で推進いただければと思う。

委員

- ・ 46ページの「移動から見た課題」の部分で、宇都宮駅の東部地区は、バス路線再編により、バスの便数が増え、駅への移動手段が飛躍的に改善されたと地域としては感じている。一方で、東部地区から中心市街地への直行バスがない。市役所等の中心市街地方面へ行く場合、宇都宮駅東口で降車し、JR鉄道駅舎内を通り、バスへ乗り換える必要がある。高齢者はまちなかに出ること自体が非常に困難になってきている。そういった事情を踏まえ、例えば1日10便あるバス路線のうちの2便は中心市街地を経由するといった対応を取っていただければ、大変有難い。

会長

- ・ 便利になる一方で不便になる人もいる。状況を整理し、市全体としてどのような対応ができるかを引き続き議論したい。

委員

- ・ 今後、高齢化が進み、地域内交通の利用がどんどん増えてくることが予想される。地域内交通が幅広い世代で利用されるように促進していくつもりであるが、車両を運行するタクシーが間に合うのか、という状況が生まれるかもしれない。現在もギリギリの路線で運行している状況であり、これから更に需要が増えていった時に、タクシーのサービスや利用客に制限が生まれてくるようであれば、これからの地域内交通の推進にあたって、ネッ

クになってくるのではないかと思う。タクシー会社は市内に何社かあるが、地域でお金を集めながら市と協働で事業を実施している。地域としては、なるべく単価の安い会社に頼みたいというのが前提としてあるが、そうなると、特定の会社へ依頼が集中するような偏った形になりかねない。市が調整し、いずれのタクシー会社でも同程度の価格となれば、偏りが解消できるのではないかと思う。そういった状況になってからバタバタと対応することは避けたいので、本件についての対策についても検討いただきたい。

会長

- ・ 地域内交通は地域の足でもあるが、一方で、タクシーとの兼ね合いがある。

委員

- ・ 45ページからの「移動から見た課題」の整理について、今回の整理は、政策分野ごとに交通がどうあるべきかがまとめられているので、既存計画と比べ、政策面で整理しやすい、分かりやすいものになっていると感じた。ただ、つくるステージからつかうステージへという話があったが、利用者目線で交通をみると、見え方が変わってくる。高齢者、交通弱者といった立場、あるいは、通学や通勤、買物・娯楽、観光インバウンドで利用するといった具体的な場面でみると、見方が変わってくると思う。取組テーマから具体的な政策、施策事業へ落とし込んでいく時に、そういった視点についても工夫いただきたい。

委員

- ・ 労働力不足は全国的に深刻化している。都内でもバス路線減便等々が始まっている。45ページ以降を見ると、ネットワーク充実といったことが記載されているが、バスを単に増やしますという話だとなかなか現実的ではない。
- ・ 大事なことは、3点ある。1つ目は、ネットワーク再編によるネットワーク効率化。どこかでバスを増やすならどこかから運転手を手配しないといけない。効率性の一つ欠かせない要素。2つ目は、需要をどう組み合わせていくか。課題のところ、子育て、健康などそれぞれの分野ごとに移動手段があり、充実させるとあるが、それぞれの分野で各々移動手段を確保すると、相当数確保しないといけない。移動手段をどう組み合わせていくか、横串の視点が必要。3つ目は、供給サイドから輸送資源の統合が必要。公共交通、バス、タクシー等以外にも、病院の送迎、スクールバス等もある。そういったものをどう組み合わせていくかが重要。供給サイドの考え方もどこかに入れていただきたい。
- ・ 最後に一点、「移動から見た課題」のところでは、交通サイドの話が多いと感じる。都市交通戦略ということで、まちづくりサイドも大事。ネットワークだけでどうにかできるものではない。どう暮らしていくかという観点からの課題もある。現状、そういった観点からの記載は都市空間・交通のところにはしか見られないので、その辺りの視点がもう少しあるのではないかと思う。

委員

- ・ まちづくりと公共交通ネットワークが連携して考えられることが重要。その観点から、移動から見た課題、取組テーマを見ると、都市空間・交通のところ記載の「立地適正化計

画に基づく都市形成と連携した移動手段の確保・適正化」のところに集約されると認識している。

- ・都市交通戦略に基づいて、これまで各種取組がなされてきた。公共交通網再編、L R T開業から2ヶ月しか経っていないので、精緻にどこまで分析されているのか存じ上げていない。折角の中間見直しの機会なので、もっとこうした方がいいといった反省点を踏まえた内容も盛り込んで作り上げていただければと思う。

会長

- ・L R T開業前から後まで、緻密にデータを取っている段階であり、事後検証は可能である。次のタイミングで載せられるかは別として、今後も注視していきたい。

委員

- ・色々な面で色々な角度から見た計画の現状分析をされていると思う。一方で、中心市街地はN C C、L R Tの計画など、既存の計画が色々あると思う。そういった横との連携が見えるような記載がされていると有難い。
- ・市域が広いので、中心市街地とその他の地域、各課題におけるテーマはある程度分けて記載していくことも考えられる。その辺りのとりまとめ方を今後検討していただきたい。

会長

- ・県央地域の公共交通利活用促進協議会を行っているが、周辺市町村との連携も重要であると感じる。県には引き続きリーダーシップを取っていただきながら、市と一緒に進めていただければと思う。

委員

- ・8月26日に無事L R T開業した。この場をお借りして御礼申し上げたい。どんどん利用していただければと思う。現在、秋休みで利用が急に伸びるなど、日に日に色々な利用の仕方がされており、需要予測で想定した以外の利用もかなりあった。ご祝儀需要とも言われているが、2ヶ月間続いている。この需要を失わないように色々工夫したい。都市交通戦略推進懇談会の委員の皆様との議論の積み重ねが重要。総合政策部、建設部、都市整備部、3つの部それぞれで計画を持っているが、それが見える形でしっかり連携したい。

会長

- ・本来、一人ひとりの意見に対し、市の考え方について回答を得て議論したかったが、ご容赦いただきたい。本日の意見は、大きな宿題とさせていただければと思う。今日いただいた議論を事務局でとりまとめて、次回、12月に素案を出す。大きな方向性としては概ね認めていただいたのではないかと思います。細かい点の微調整はこれから対応させていただきます。
- ・他に質問が無ければ、進行を事務局にお返しする。

閉会

事務局

- ・ 次回は12月18日に、第3回懇談会を開催する予定で進めている。目標や施策事業、計画の素案をお示しした上で、ご意見をいただければと思う。場所、時間等の詳細については、改めて各委員の皆様へ通知させていただきたい。以上で、第2回宇都宮都市交通戦略推進懇談会を終了する。

以上